

## 第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

### 【次第】

日時 令和6年8月26日（月曜日）10：00～11：30

場所 県庁西庁舎6階 災害対策本部室

#### 1 開会

○ 海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康

○ 神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄

#### 2 報告

(1) 「対話の場（6月）」について

(2) 調査研究部会について

(3) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

#### 3 議題

(1) 「対話の場」の9月以降の取組について

(2) 調査研究部会における検討課題について

(3) その他

#### 4 事務連絡

◇第3回推進会議 2月3日（月曜日）10：00～11：30

（場所：えびなこどもセンター201会議室）

（配付資料一覧は裏面）

## 【配付資料】

- (資料1) 「対話の場（6月）」について
  - (資料2) 調査研究部会について
  - (資料3) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について
  - (資料4) 「対話の場」の9月以降の取組について
  - (資料5) 調査研究部会における検討課題について
  - (資料6) 取組状況の評価について
- 
- (参考資料1) 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 設置要綱
  - (参考資料2) 「対話の場」（6月）報告 ウェブサイト掲載資料

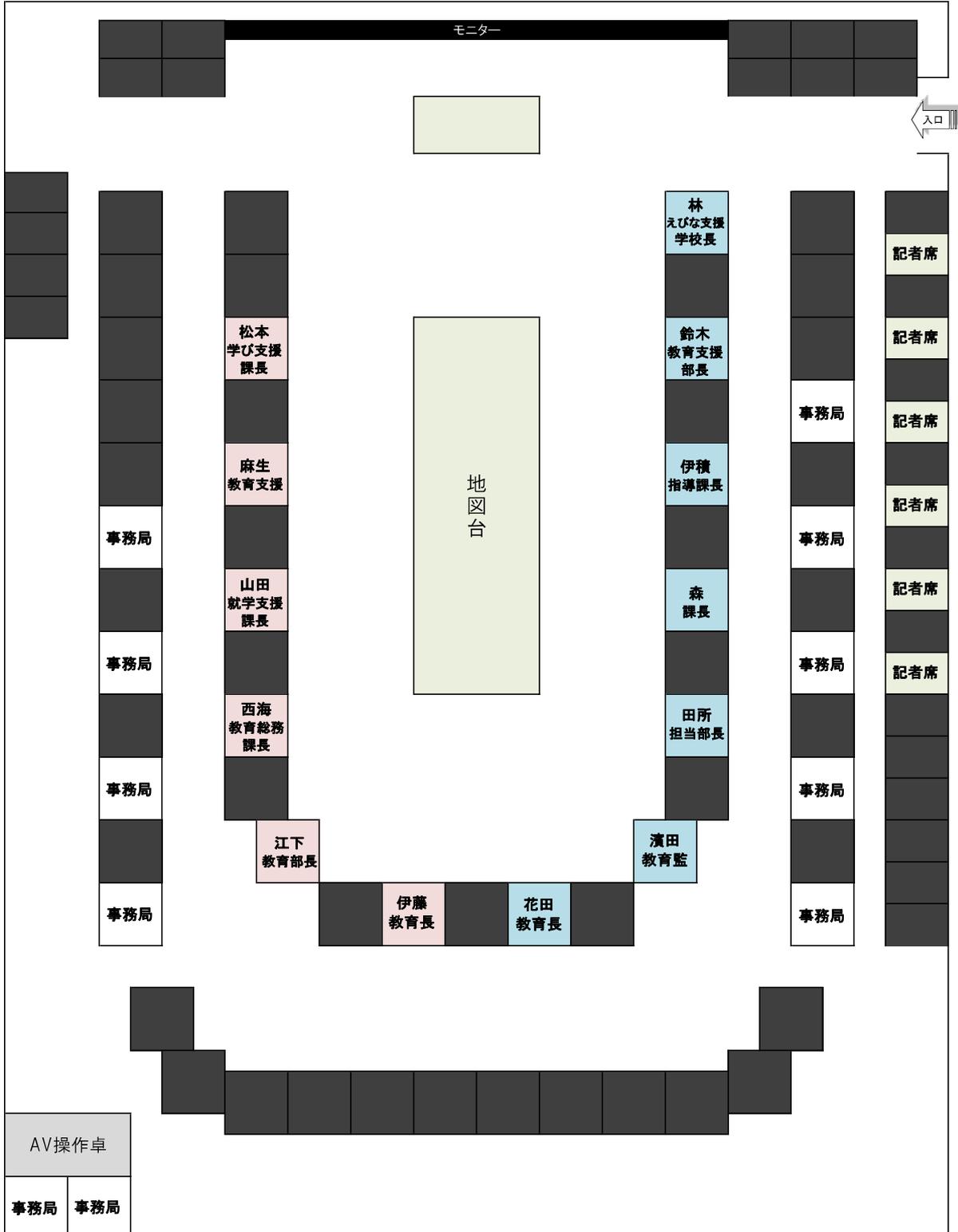
## 第2回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 名簿

### 【構成員】

1	海老名市教育委員会	教育長	伊藤 文康
2		教育部長	江下 裕隆
3		教育総務課長	西海 幸弘
4		就学支援課長	山田 圭
5		教育支援課長	麻生 仁
6		学び支援課長	松本 晃子
7	神奈川県立総合教育センター	教育支援部長	鈴木 英資
8	県央教育事務所	指導課長	伊積 秀人
9	神奈川県立えびな支援学校	校長	林 麻佐美
10	神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
11		教育監	濱田 啓太郎
12		インクルーシブ教育推進担当部長	田所 健司
13		インクルーシブ教育推進課長	森 由佳

### 【事務局】

14	海老名市教育委員会	教育支援センター所長	小藺 洋
15		教育支援課指導係 指導主事	五十嵐 光
16		教育支援課支援係 指導主事	豊山 花林
17		教育支援課支援係 指導主事	小原 瑠美
18	神奈川県立総合教育センター	学校教育支援課 指導主事	高木 正樹
19	神奈川県教育委員会	課長代理 兼 事業調整グループ GL	中川 真紀代
20		事業調整グループ 主査	花田 竜也
21		指導グループ GL	二宮 雄治
22		インクルーシブ教育推進課 指導グループ 指導主事	程島 観
23		指導グループ 指導主事	新船 佳如
24		指導グループ 指導主事	伊藤 紀貴



## 令和6年度 「対話の場」(6月)について

## 1 参加人数(計 180 名)

①	海西中学校区	中新田コミュニティセンター	6月15日(土) 10:00~11:30	32名
②	海老名中学校区	国分コミュニティセンター	6月15日(土) 14:00~15:30	27名
③	大谷中学校区	大谷コミュニティセンター	6月16日(日) 10:00~11:30	32名
④	有馬中学校区	社家コミュニティセンター	6月16日(日) 14:00~15:30	28名
⑤	今泉中学校区	上今泉コミュニティセンター	6月23日(日) 10:00~11:30	39名
⑥	柏ヶ谷中学校区	柏ヶ谷コミュニティセンター	6月23日(日) 14:00~15:30	22名

## 2 参加者意見の整理

## 【前例がないことへの不安感や、学校の負担に対する懸念】

- ・フルインクルーシブ教育という新しい言葉について、これからどんなことが始まるのかという不安感。
- ・学校の教員が不足している中で、フルインクルーシブ教育を進めることへの懸念。

## 【変化への期待感】

- ・学校や制度が変わっていく機会である、という期待や関心。

## 【どんな学校にしていきたいか】

- ・全員が互いを認め合い、尊重し合える学校。
- ・一斉授業を中心とした学びから、一人ひとりに合わせた柔軟な教育方法のアイデア。
- ・子どもたちが安心して過ごせる学校。
- ・地域と連携して子どもたちを育てる。

## 3 課題

## ○要望について

- ・具体的な施策や方法などを提示することへの要望。
- ゴールや正解がある取組ではないため、今後も継続的に対話を重ね、ともに作り上げていく。具体的な施策等については、様々な意見を参考に検討し、時機を見て公表していく。

## ○不安感について(ひとり一人への支援と、共に学ぶこと)

- ・一人ひとりへの支援と、共に学ぶことを相反する方向のように捉えていることで起こる、不安感。
- 子どもたち一人ひとりの学びを大切にし、ともに学ぶ環境を実現していくため、校内支援体制および教室環境について、調査研究を進めていく。

## ○フルインクルーシブ教育推進をさらに進めていくために

- ・「対話の場」を通し、参加者がフルインクルーシブ教育について主体的に学ぶ場となっていた。
- 今後も対話の場を継続的に計画、実施していく。

## 令和6年度 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

## 【調査研究部会】

## 1 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、推進会議で協議された研究、企画、実践内容や、想定される課題について調査研究を行う。

## 2 調査研究内容

- ・ロードマップ、テーマ別計画の作成
- ・フルインクルーシブな学校づくりに向けた在り方の検討  
(就学相談、校内支援体制等)

## 3 スケジュール

- ・第1回 令和6年 6月27日(木)
- ・第2回 令和6年 7月30日(火)
- ・第3回 令和6年 9月下旬頃
- ・第4回 令和7年 12月頃
- ・第5回 令和7年 2月頃

## 4 構成員

1	【有識者】東京理科大学 教職教育センター 講師 中村信雄 (部会長)
2	【有識者】明治学院大学 心理学部教育発達学科 教授 海津亜希子
3	国立特別支援教育総合研究所 研究員
4	海老名市教育委員会 就学支援課長 (副部会長)
5	海老名市教育委員会 教育支援課長
6	海老名市教育委員会 教育支援センター所長
7	神奈川県教育委員会 教育局支援部 子ども教育支援課 指導主事
8	神奈川県教育委員会 教育局支援部 特別支援教育課 指導主事
9	神奈川県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 指導主事
10	神奈川県立総合教育センター 学校教育支援課 指導主事

※ 原則、構成員の欠席があった際は、当該構成員は当該会議の議事等について、部会長に一任することとする。なお、代理出席について、部会長の判断により可能とする。

※ この他必要に応じて、関係者を招き意見を聞くことができることとするともに、関係職員等をオブザーバーとして参加させることができる。

## 5 開催状況

### 【第1回：協議内容】

- 市が目指す姿「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学ぶことができる環境の実現」をもとに考えられる課題を提示し、意見聴取
- ・フルインクルーシブ教育を推進していくにあたり、ソフト、ハード両面を変えていく必要性について多く意見が上がった。
- ・ソフト面では、ただ増員すればよいではなく、しっかりと意味や役割を理解した上で取り組みを進めること、教職員の意識改革の重要性が話し合われた。また、教育相談コーディネーター専任化の必要性についても話題が上がった。
- ・ハード面では、35人学級を前提として考えられることについて話し合われた。

⇒次回は、35人学級を前提とした「望ましい教室環境」について協議することが決定

### 【第2回：協議内容】

- 対話の場（6月）の報告および今後の対話の場の予定について意見聴取。
- ・懸念、不安、期待、フルインクルーシブな学校づくりへのアイデア等が出されたことを受けて、対話の場のよさや効果を共有するとともに、今後の施策に活かしていくことが確認された。
- ・今後の対話の場を行う上で、かかわる人たちの意識を高める必要性について意見が出された。

⇒対話の場については、随時報告を行うことで了承。

- 現状の35人学級を前提とした教室環境の改善点について意見聴取
- ・インクルーシブな教室環境を考える上で、画一的、一律ではないこと、こども自身が自分に合った学びを選択できるような、フレキシブルに変えられる柔軟な教室レイアウトの必要性が話し合われた。
- ・現状の35人学級を少人数にする工夫について話し合われた。
- ・ハード面だけでなく、こども自身が学級への帰属意識をもてるようにすることにも議論が及んだ。

⇒こども自身が自分に合った学びを選択できる教室環境について議論を深める必要があるため、引き続き次回も望ましい教室環境を協議することで了承。また、こども自身が自分に合った学びを選択できるようにするため、支援体制の拡充についても協議していくことで了承。

## 令和6年度 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

## 1 設置目的

海老名市のすべてのこどもが小学校・中学校でともに学べる環境の実現に向けて、本事業の目指す姿を共有し、課題を整理しながら実現に向けての研究を行う。

## 2 調査研究内容

- ・フルインクルーシブ教育推進に係る課題を整理し、解決方法を研究する
- ・「フルインクルーシブな学級づくり」、「教育制度」の視点を持ち、支援体制が効果的に活用できる方法を研究する。

## 3 スケジュール

- ・第1回 令和6年 5月29日(水)
- ・第2回 令和6年 7月23日(火)
- ・第3回 令和6年10月頃
- ・第4回 令和6年11月頃
- ・第5回 令和7年 1月頃
- ・第6回 令和7年 3月頃

## 4 構成員

1	スーパーバイザー【有識者1名】
2	小学校保護者1名
3	中学校保護者1名
4	障がい者団体より1名
5	えびな支援学校より1名
6	神奈川県教育委員会 教育局 インクルーシブ教育推進課 指導主事
7	小学校校長1名
8	中学校校長1名
9	小学校教育相談コーディネーター1名
10	中学校教育相談コーディネーター1名
11	海老名市教育委員会 教育長
12	海老名市教育委員会 教育部長
13	海老名市教育委員会 教育部次長
14	海老名市教育委員会 教育支援課長
15	海老名市教育委員会 就学支援課長

## 5 開催状況

### 【第1回：協議内容】

- 市が目指す姿「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学ぶことができる環境の実現」をもとに考えられる課題を提示し、意見聴取。
- ・こどもたちが一緒に過ごすことよさについて、保護者を中心に多くの意見が上がった。
- ・教職員への周知、アプローチについて丁寧に行っていくことと同時に、インクルーシブ教育のよさを伝えていく必要性について意見交換がなされた。
- ・インクルーシブな環境面について、学校の実践例が紹介され、望ましい環境について意見交換がなされた。

⇒次回は対話の場の報告と、35人学級を前提とした「望ましい教室環境」について協議することです承。

### 【第2回：協議内容】

- 対話の場（6月）の報告および今後の対話の場の予定について意見聴取
- ・今後の対話の場について、療育機関など民間との対話があるとよい。
- ・保護者から、こどもたちが通う学校の教職員が、フルインクルーシブ教育について理解することの必要性が出され、学校と教育行政が一緒になって進めていくことが確認された。

⇒対話の場については、随時報告していくことです承。

- いくつかの環境事例を紹介後、現状の35人学級を前提とした、望ましい教室環境について意見聴取
- ・環境事例をもとに、こどもが安心して過ごすことができたり、協働的な学びができたりする環境として、イメージの共有化が図られた。
- ・こどもたちが安心して過ごすことができるために必要な支援環境が複数出された。
- ・新しく物を入れるだけでなく、日常的にできる支援について意見交換がなされた。

⇒次回は、望ましい教室環境と支援体制について協議することです承。

※2回の会議とも、スーパーバイザーから講義あり

対話の場「フルインクルーシブ教育～みんなで考えよう 海老名の教育～」  
【9月以降の取組について】

各種団体との「対話の場」

- ・ 9月から10月に主に以下の団体と実施予定  
 (※ 海老名市特別支援学級親の会：7月実施済)  
 ○海老名市自閉症児・者親の会                      ○海老名市手をつなぐ育成会教育部  
 ○海老名市肢体不自由児者と父母の会      ○海老名市不登校支援団体                      など
- ・ フルインクルーシブ教育に対しての率直な感想、ご意見を伺いながら、どんな学校がよいかを一緒に考えていく。

教職員との「対話の場」

- ・ 10月から11月に間で各校と日程調整中。複数校合同で開催する場合もある。
- ・ 海老名市立小中学校全19校を教育長及び指導主事で訪問
- ・ 5～6名でテーマにそってディスカッションする。フルインクルーシブな視点で学校、学級経営、授業づくりや子どもたちへの伝え方を考える。

市民との「対話の場」

①集合開催（予定）

日 時：令和6年11月26日（火）18:30～20:00（90分）

会 場：海老名市文化会館小ホール（定員335名）

目 的：○これまでに開催した市民向け対話の場及び職員向け対話の場等の報告  
 ○海老名市が考えるフルインクルーシブ教育の進め方についての共有

②オンライン開催（予定）

日 時：令和6年12月7日（土）13:00～17:00

会 場：メタバースを活用した仮想空間（同時参加可能人数 100名を想定）

目 的：○集合開催での参加が難しかった方の参加機会を設ける  
 ○これまでに開催した市民向け対話の場及び職員向け対話の場等の報告  
 ○海老名市が考えるフルインクルーシブ教育の進め方についての共有

子どもとの「対話の場」

- ・ 2月に抽出校、抽出学級にて実施予定
- ・ 指導主事が子どもたちに説明しながら話を聞き、一緒に考えていく。教職員にも見ていただき、校内に広めていく。

<令和6年度 年間スケジュール>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
推進会議		第1回			第2回						第3回	
対話の場	市民向け				市民向け 市民向け（メタバース）							
	各種団体						教職員 →		子ども			

## 調査研究部会における検討課題について

### 1. 当面の検討項目について

- ・ これまでの部会では、主に 35 人学級を前提として教室環境の改善について、検討を重ねていた。
- ・ 次回以降、以下の 3 点について、構成員で調査研究を進めていく方向で検討を進める。
- ・ 併せて、取組の方向性を提示できるよう、ロードマップ等の作成を検討する。

#### ① 学校環境の整備等について

#### ② 教育支援コーディネーター（教育相談コーディネーター）を中心とした校内支援体制について

#### ③ 海老名市における就学のあり方について

## 外部評価について

### 1. 目的

海老名市教育委員会及び神奈川県教育員会で結んだ「インクルーシブ教育 の更なる推進に向けた連携と協力に関する協定書」の内容に沿って、年度ごとに取組状況等について客観的な視点からご意見をいただき、今後の取組へ活かす。

### 2. 実施時期

年度の最終推進会議終了後に実施して、その内容を次年度最初の推進会議で報告する。

### 3. 意見集約の方法

個別ヒアリング

### 4. 評価者候補（3名程度を想定）

1	有識者	
2	学校関係者	
3	海老名市 関係者	

\*評価者の選定については、議長に一任いただく。

\*単年度での依頼とする。

### 5. 下半期のスケジュール

- 令和6年8月 方向性の決定<本日>
- 令和6年9月～令和7年1月 評価項目の検討、評価者の決定
- 令和7年2月 第3回推進会議
- 令和7年2～3月 個別ヒアリング実施

※令和7年度1回目推進会議（5月予定）にて令和6年度評価を報告想定

海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(設置目的)

第2条 全ての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で共に学び共に育つことができる環境の実現を目指し、海老名市・神奈川県との緊密な相互連携と協働による取組の推進を図り、諸課題に係る協議及び取組方針の決定するため、設置する。

(所掌事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項について協議及び決定を行う。

- (1) フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践に関すること
- (2) フルインクルーシブ教育の普及・啓発に関すること
- (3) その他、フルインクルーシブ教育の推進に関すること

(組織)

第4条 推進会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

2 議長は、海老名市教育委員会教育長をもって充てる。

3 推進会議は、必要に応じて、専門的事項に関し識見を有する者、関係する県・市職員、その他の者に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(会議の開催)

第5条 推進会議は、議長が必要に応じて開催する。

2 議長は、あらかじめ指定する者に、その職務を代理させることができる。

(部会)

第6条 推進会議は、その所掌事項に係る専門的事項を調査協議させるため、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、議長が指名する。

3 部会に部会長を置く。部会に属する委員のうちから議長が指名する。

4 部会長は、部務を掌理する。

(事務局)

第7条 推進会議の庶務は、海老名市教育委員会教育支援課、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課及び総合教育センター学校教育支援課が行う。

(補則)

第8条 具体的な実施事項、遵守事項等については、海老名市教育委員会及び神奈川県教育委員会の合意の上、決定する。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

この要綱は、令和6年5月1日から施行する。

別表（第4条関係）

海老名市教育委員会	教育長
海老名市教育委員会	教育部長
海老名市教育委員会	教育総務課長
海老名市教育委員会	就学支援課長
海老名市教育委員会	教育支援課長
海老名市教育委員会	学び支援課長
神奈川県教育委員会	教育長
神奈川県教育委員会	教育局教育監
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進担当部長
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進課長
神奈川県教育委員会	県央教育事務所 指導課長
神奈川県教育委員会	総合教育センター 教育支援部長
神奈川県教育委員会	県立えびな支援学校長

【報告】令和6年度 対話の場  
フルインクルーシブ教育 ～みんなで考えよう 海老名の教育～

フルインクルーシブ教育を推進していくための第一歩として、対話の場「フルインクルーシブ教育～みんなで考えよう 海老名の教育～」を開催いたしました。市民のみなさまと直接対話をしていくという初の試みでしたが、多くのご参加をいただきました。ご参加いただきました皆様には、心よりお礼申しあげます。

対話の場面では、「フルインクルーシブ教育」に対する不安の声もたくさんありました。このことについては、今後も丁寧な説明と、対話をする機会をさらに設けていくことが必要であると考えています。その他にも、具体的なアイデアや、海老名の学校をどんな学校にしていきたいかなど、たくさんのご意見をいただきました。フルインクルーシブ教育は、一人ひとりの学びの保障が前提であるということ、引き続きご説明していきたいと思えます。

フルインクルーシブ教育に対する不安や懸念、実現に向けてのアイデア等、いただきましたご意見はフルインクルーシブ教育をさらに推進するための素地としていきたいと思えます。

今後とも、ご理解、ご協力をお願いいたします。

開催日時：6月15日（土）6月16日（日）、6月23日（日）の3日間

10:00～11:30、14:00～15:30 実施、全6回

場所：中学校区内のコミュニティセンター 6か所

- |   |         |               |                     |
|---|---------|---------------|---------------------|
| ① | 海西中学校区  | 中新田コミュニティセンター | 6月15日（土）10:00～11:30 |
| ② | 海老名中学校区 | 国分コミュニティセンター  | 6月15日（土）14:00～15:30 |
| ③ | 大谷中学校区  | 大谷コミュニティセンター  | 6月16日（日）10:00～11:30 |
| ④ | 有馬中学校区  | 社家コミュニティセンター  | 6月16日（日）14:00～15:30 |
| ⑤ | 今泉中学校区  | 上今泉コミュニティセンター | 6月23日（日）10:00～11:30 |
| ⑥ | 柏ヶ谷中学校区 | 柏ヶ谷コミュニティセンター | 6月23日（日）14:00～15:30 |

## 内容

### 1. 教育長挨拶



## 2. 趣旨説明



## 3. グループでの意見交換



## 4. 全体共有



## ご意見（抜粋）

- ・ 不安な気持ちがある。前例もない。成功事例を作っていくことが必要だろう。間違っただとしても修正していく仕組みがあるといい。
- ・ うちの子は支援級、養護学校に行ったが、こういうところがなくなってしまうと、どういう形になるのか自分には想像ができない。今小中学校に通っている方は不安じゃないか。
- ・ 1つの場に無理やり入れられるのが良いのか。今のままでは難しい。今の学校を「がらっと」変える必要がある。就学前・学校・社会と連続性ある取組が必要。その子に応じた選択ができることが必要。
- ・ ただでさえ人手不足で、30人学級とプラスで取り出しも見るとかと思っていた。教育長の話や劇を見て、1人1人の意識を変えて行くことがフルインクルーシブ教育なのかと思った。
- ・ いいな、と思っている。実際どんなことをやっていくか楽しみ。知りたい。
- ・ 目的は、どんな子どもでも一緒に過ごせることをめざすことだろう。えびなの教育現場を見ると、考え方に差がある。地域の差もあるだろう。ソフトもハードも一気ににはできない。
- ・ 自分はこういう人間だよ、と言ったときにそのままを認めてもらえる雰囲気をつくってほしい。特別扱いもいらぬし、小学校ではいなかったのが車イスの存在すら知らなかった。特別の配慮ではなく当然のことではないのか。
- ・ 教員の働き方改革が言われる中で、教員への支援・サポートは気になる。
- ・ フルインクルーシブになったらきっと先生方が足りなくなる。そうしたら、自分も協力したい。地域の皆さんが生かせる場所、その方法があるといいなと思う。
- ・ 不登校や集団が苦手な子、療育の子はどうなるか。すべての子の学びが保障されるのか。
- ・ 地域や先生、親など一丸となって子を育てる。もっと教育に口をはさむ。大人でも障がいのある人が友達にいと理解が進み、障がいのある人を町で見かけたら手助けできる。具体的な手段は分からないが知識・経験を増やしていけると良い。
- ・ 学校だけでなく、社会もインクルーシブに。小さいころ（生まれたとき）からお互いが当たり前で認め合えるようになるといい。
- ・ プールの付き添い、全校遠足の付き添い、などもっと地域の方が学校に関わっていいと思う。もっと使ってほしい。
- ・ コロナで一旦閉鎖され、ここが変わっていくチャンス。周りが入っていけるようになるといいと思う。
- ・ 1つの学校の中にも選択肢を増やす。高校入試があるから中学校は成績が心配。
- ・ ゴールは正直ないのかも。違いがあることが分かる。自他の違いを認識したうえで受け入れる。子ども同士が言い合えたりする環境ができれば一応のゴール、目指す形なのかもしれない。
- ・ 先生1人だとできないのでは。サポーターするスタッフが必要。子ども同士の関わりも大切だが、補助してくれる人が豊富にいてほしい。
- ・ やることはとてもいいことだと思うが、その先に自由選択があるかどうか。一クラスの人数を減らすべき。
- ・ 子どもが明日も学校行きたいなと感じられることが大事。勉強だけではない。

- 包み込むインクルーシブの前に、多様性を理解する、ダイバーシティを理解するという事の方が先に必要なんじゃないか。
- いろんなお子さんが一人一人のニーズに応じていく際の適正人数について考えていく必要がある。35人では難しい。10人のクラスがあってもいい。違う学年の先生と共に過ごしていくのもいいと思う。
- 理想なのかなと思うが、今の学校制度の在り方の中に入れるのは難しい。学校教育そのものを変える必要がある。個別の方が入る子、聴覚が過敏な子など、その子に合ったやり方で行うのがインクルーシブ教育。相当な設備投資・人材確保・カリキュラム変更などすべて考えていかなければならない。
- 理解が先か始めるのが先か。クラスの垣根を取るなど先に始めてその環境に身を置いてみるのも良いのでは。1か月間など長めに支援学校とクラスを混合してみる。
- 価値観がみな違うので、違いを認めるところから始める。
- インクルーシブ教育は共生社会の礎だと思う。昔は、男女別の学校だった。はじめ共学になるときに抵抗があった。これも同じことではないか。当たり前になる。一斉授業の限界がきている。個別教育計画を取り入れたりしながら、当たり前を崩していくこと、みんながみんなを認めていけるような学校になるとよい。
- 通常級と支援級の話ではなく、目が見えない子、重度の子なども含めての話だからどこまでできるのかな
- 先生が35人の生徒を見るのではなく、子どもが先生を選んで自分に合った学習ができるのがいいと思う。飛び級もあり。なんで6年間、そこに留まらなければいけないのか。
- 障がいのあるなしでなく、全員が支援の対象という意識を持たなくてはならない。同じ場というのが教室なのか、学校の中なのか、地域の中なのか。不登校の子が学校に来なければならないのではなく、地域の中で学べれば。そういうことを話し合っスタートできれば。同じ教室に入れて一斉授業をするのではなく、個別最適な学びを目指して学校を変えていかなければならない。教員の意識改革が最も大切になるだろう。
- 国際的な流れであり、素晴らしい取り組みである。反面、定数の問題など、課題も多いと感じている。予算的な見直しをもって、やってもらっていると思うが、期待7割、心配3割である。
- 障がいがある子のことだと思っていた。海老名の子どもたちがどうなっていくんだろう。目指すところが見えない。フルインクルーシブと聞いて、フルがつかなくてもインクルーシブな社会になっていくといい。
- 好きなことを積み上げていくと、苦手なことにも挑戦できるようになる。それを待ってもらえる学校。本人が決めた選択は尊重してもらえる学校。
- 海老名市は支援学校もある。「今日は支援学校、今日は地域の小学校に通う」などと選択できるとよい。
- 多数にも少数には合わせないとすると答えは何？最終的には選べるという状況を作っていくことが大事なのかなと思う。